

since1995.12
2023年7月発行



SKYかわさき通信

社会福祉法人SKYかわさき
〒214-0014 川崎市多摩区登戸 2341-1
TEL : 044-299-6526
FAX : 044-922-6628
HP : <http://www.sky1995.com/>

第49号

「コロナ禍が明けて」

SKYかわさき理事・があでん・ららら所長 金森 孝之

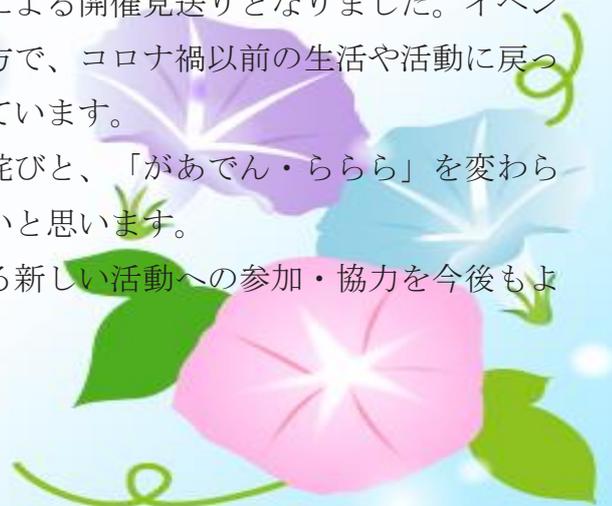
ゴールデンウィークが明けて新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられたことで、三年間続いた騒動はひとまずの区切りを迎えたようです。緊急事態宣言に始まり、事業所の閉所、休校、ワクチン、抗原検査、感染、散々に振り回された誰にとっても苦い記憶の多い三年間だったと思います。

SKYかわさきとしても販売機会の減少、地域交流の制限、レクの自粛など今まで大切にしてきたことを見直さざるを得ない日々が続きました。そんな中で少しでも前向きに考えられたのは、どんな形になろうとも利用者の社会参加の機会を奪うことなく事業が継続できたこと、そして答えのない不安の中で折り合いをつける皆の柔軟さを感じることができたことです。きっとこれから活躍の場を移すことになったとしても自分らしく力を発揮するであろう姿を思い描くことができました。一度しかない子どもの行事もたくさん中止になりましたが不憫に思ってしまうのは親だけであって子どもは気にせず前を向いていると感じさせられます。自分が想像するより遥かにたくましい周りの人の姿はコロナ禍で後ろ向きな気持ちにエネルギーを与えてくれた気がします。

この春「らららフェスタ（ハーブまつり）」についてお客様や関係者の方からたくさんの問い合わせを頂きました。実は20年以上続いたお祭りを経験している利用者も職員も現在は数少なく、ここ二年の中止とは状況が異なり、感染不安よりも準備不足による開催見送りとなりました。イベントも販売も増えて賑やかな日々が戻って来ることを望む一方で、コロナ禍以前の生活や活動に戻っていくにはきっともうしばらく時間が必要なのだと実感しています。

楽しみにして下さっていた皆様にはこの場を借りてお詫びと、「があでん・ららら」を変わず想って下さっていることにあらためて感謝の意を伝えたいと思います。

そして少したくましくなった利用者の皆さんと作り上げる新しい活動への参加・協力を今後もよろしく願いいたします。





令和4年度事業報告・令和5年度事業計画

令和4年度は「透明性、公益性を確保し、地域ニーズを確認する」「体制整備を行い経営基盤を安定させる」「人材育成と世代交代をすすめること」を事業方針としたが、昨年に引き続き先の見通せぬコロナ禍にあって、年度前半は対面での活動が制限される事業運営が続いた。

地域ニーズの確認については、事業所ごとの地域ネットワーク会議は一部開催にとどまったが、6月、10月、3月の年3回の評議員会で意見交換の場を設け地域ニーズの確認に努めた。また、SKY通信に「画龍点睛」コーナーを設け、各方面で活躍する評議員からのメッセージを紹介した。令和5年1月にはSKYかわさき(法人)地域ネットワーク会議を開催し、国連人権委員会元特別報告者ダニウス・プラス氏を招いて市内の多くの関係者と意見交換することができた。



体制整備については医療連携体制の確立をすすめ、支援の充実を図った。精神障害のある人の地域での多様な住まいと暮らし方を支援するために、自立生活援助事業を開始し、グループホームから単身生活へ移行した人の支援を行った。令和4年度特別委員会として、地域活動支援センターあり方検討会を開催し、地域活動支援センターの意義と方向性を確認して、閉塞感や孤立感を和らげる様々な工夫を重ねた。また、川崎市北部地域生活支援センターの第5期指定管理を受託した。



人材育成と世代交代については、全事業所に主任を配置。所長会から主任会へ各種委員会の決済にかかる権限移譲をすすめた。また障害福祉事業に新たに義務化された感染対策委員会、身体拘束等の適正化委員会、虐待防止委員会を設置した。令和4年2月に報道発表のあった麻生区監禁事件の衝撃を受け、このような悲惨な事件が起きない取り組みに向け、11月には法人相談支援従事者研修として「受診受療援助をどう展開するか」を、また、全職員対象に親子まるっと伴走支援の研修を実施した。2月には3年ぶりの業務報告会を開催した。また、同月、普及啓発として居場所の力をテーマに「ゆめパの時間」上映会とトークセッションを、3月には「知ってもらおう私たちを！」をテーマとした川崎市ピア活動地域交流会を、障
施協精神障害者支援施設分科会と協力して対面で開催した。

令和5年度は社会福祉法人SKYかわさき骨格作り「中期3年計画」の中間年に当たる。防災委員会に「BCP作成特別委員会」を設け、今年度末までに作成が義務付けられたBCPの作成を行う。また、法人の活動がより外部に伝えられるようホームページの積極的な活用を行う予定である。特別委員会では、就労B型交通費問題、きたのば有効活用と新事業の検討を行う。令和5年2月には東京、滝山病院における虐待事件が報道された。繰り返される人権侵害事件に暗澹たる気持ちとなる。隔離収容の構造的課題を一人一人が呻吟し、医療と福祉における事件を防いでいかなければならない。賽の河原の石積みのような徒労感に襲われるが、許してはいけないことがある。障害者権利条約を、暗闇を照らす一筋の光として一歩ずつ前に進んでいきたい。



記 三橋良子



ご寄附御礼 (令和4年12月1日～令和5年4月30日)

○カリタス女子中学高等学校 様 ○日本基督教団まぶね教会 様

(申込書・払込取扱票で「**掲載可**」に**チェックのある方のみ掲載**させていただいております)

計95,000円のご寄附をいただきました。

お志は大切に使用させていただきます。本当にありがとうございました。



画竜点睛

物事を成し遂げるために重要な最後の仕上げという意味のこと。

評議員の皆様のごひとことコーナー Vol.4

地域ニーズへの関心事

評議員 障害者支援施設 桜の風 岡部 健



ここしばらく私が関心を寄せている地域ニーズが二つあります。一つは「“障害とは何か”をどのように分かりやすく地域に伝えるか」、二つ目は「地域の中で困難を抱える家族をどう支援するか」です。

一つ目は、私が現在障害者施設に従事し、その地域連携としてここ数年川崎市社会福祉協議会の活動に参加しており、民生委員・児童委員との関わりから生まれた関心事です。その関わりの中で民生委員・児童委員の方から「子どもや高齢者と関わることは多いのですが、障害のことは分かりにくく、関わりも少ない」という声を度々聞きます。これはまさに地域の声を代弁しているのではないかと感じています。昨年 SKY かわさきの協力で作成された映画「不安の正体」を私も見させて頂きましたが、私の関心事とも重なり、改めて精神障害者を含めて“障害とは何か”を地域に分かりやすく伝えることの大切さ、そして難しさを感じています。

二つ目は、私の経験の範囲に過ぎませんが、子育てから高齢期に至るまでさまざまな困難を抱える家族に出会ってきたことで、地域の中で“家族”を単位とした支援がますます重要になるだろうと感じています。地域では一般的であった核家族と言われるような両親と子どもの世帯が年々減少し続けており、ひとり親や単身世帯が増加しています。そして児童・障害者・高齢者への虐待や社会的ひきこもり、「8050」の多問題家庭、ヤングケアラーなどと課題が山積みです。これらの課題には対象となる個人への支援だけではなく、地域の中で家族面接のような手法で“家族”に丸ごと関わり、見立て、支援する必要があると感じていますが、そのような支援はごく一部のように思います。

この度広報のお話があり、内容も自由で良いということで、つらつらと私の関心事を述べましたが、自分なりに出来ることを模索し、幾分かのチャレンジをしている最中です。



北部地域生活支援センターゆいあす

第13回ピア活動地域交流会を行いました！！

(令和5年3月14日 @川崎国際交流センター + ZOOM)



会場に53人、オンライン
18人、計71人の人達に
参加していただきました！



年に1回、川崎でピア活動を行っている人や興味を持っているひとたちが集まって交流会を行っています。その様子をちょっと覗いてみましょう！

今回のテーマは、「**知ってもらおう私たちを！～生活・環境・仲間たち～**」で、映画「不安の正体」の上映、映画に絡んだ人たちの座談会、映画や座談会をみて語り合い（グループワーク）と盛り沢山の内容でした。座談会やグループワークでの意見及び感想を聞いてみましょう！



いろんな話がありました！！



- ★住民反対運動の住民説明会にピア3人で出席したが、とてもつらく帰りに3人でお茶して2時間位喋った。自分の老後について考えると、今後生活環境の変化を受け入れてもらえるような地域社会ができたらいいなと思っている。
- ★グループホームの問題を自分の問題としてとらえたら、とても打ちのめさせられました。少しかけたものがあることが人間の優しさにつながり、尊さであるという考え方を聞いて、すごく元気が出ました。
- ★自分ひとりで悩んできました。これからは、地域の人と一緒に悩みたいです。



アンケートに、地域社会活動に参加したいという当事者の方や、地域住民を巻き込んで、皆で知って考えていける世の中になればいいという意見がありました。

また、沢山の感想やご意見を頂き今回の交流会がとても良い会になったと感じました。

座談会やグループワークの発表を聞いて、我々当事者が、生きづらさや地域で安心して暮らしたいという思いを発信し続けることの大切さを再認識しました。

今後も、川崎から皆と一緒に、当事者の思いを発信して行きたいと思っています。

緊急レポート！ 滝山病院事件、メンバーはかく語りき
2月にNHKで放送された『ルポ死亡退院～精神医療・闇の実態～』は衝撃的な内容で、ゆりあすでも話題になっていました。5月18日に行われたゆりあすグループ法律相談会では、その時放送された滝山病院での事件や、精神医療の実態について議論が交わされました。メンバーの声をご紹介します。

「精神科病院は密室だからこんなことが起こる」
「親が認知症になりつつある。まったく他人事と思えない」
「家族、病院、地域、福祉 全てから見捨てられていくような感覚に陥り、悲しくなった」



さくらスタジオ

～今年も咲 LIVE2023 を開催しました!～

さくらスタジオは、利用者個々の目標や体調に合わせて利用日を決めているため、利用者同士でなかなか顔を合わせることができない方もいます。特にこのコロナ禍においては、外出することも減り人と顔を合わせる機会そのものが減りました。

そんな中、自分の好きなものを発信し他の人が好きなものを知ることで、直接顔をみられなくてもつながりを感じられるようにと、事業所内での作品展を「咲 LIVE(さくらいぶ)」と名付け2020年にスタートしました。

咲 LIVE は、1年間の自身の活動を発表する場として毎年開催し徐々に作品の幅も広がってきました。今回は絵画・小説・ゲーム動画・写真などの作品を2週間に渡り展示しました。その期間中に2回の公開日を設け、地域の関係者や支援者、他事業所の方々にお越しいただきました。公開日には「声を出そう!」プログラム参加者による歌詞の朗読と合唱を披露しました。ラストはご来場のお客様にも一緒に歌っていただき会場が一体となる瞬間を生み出すことができました。春をイメージした朗読と、さくらスタジオの皆で作上げた桜の木の壁画の力もあり、素敵に春を感じるひと時となりました。

今後も自己表現や社会の中の一人と感じられる機会を大切にしていきたいと思えます。



♪ .. ♣ メンバーの声 ♣ .. ♪

- ・さくらスタジオの中だと緊張感もありつつ楽しめるから次回も同じ環境で発表したい。
- ・発表をしてみて、もっと声を大きくしても良かったなと思った。
- ・自分の発表を後から見るとちょっと棒読みになってしまっているように感じた。
- ・大きい会場や外部の場所を借りてしまうと緊張でできないかも...
- ・緊張はしたけどかまわずに終わって良かった。
- ・自分の絵が飾られる機会は多くないからいい経験になった。
- ・もっといろんな人が来てくれたらより良かった。
- ・外部の人が見に来てくれて嬉しかった。
- ・発表者の感情の入れ方がすごかった。
- ・みんなで一つの作品を作れたのが楽しかった。
- ・また来年も咲 LIVE をやりたい。



さくらスタジオの普段の様子は、事業所ホームページの「さくら reports!」や「Instagram」にて随時ご覧いただけます!



ホームページ

Instagram
sakurastudio-2016

歳月をかさねた
みなさんの

ホツと安心♥をサポートするには？

社会全体が高齢社会と言われるようになって久しいですが、「ADLの自立が継続できない事態となった際に、生活の場をどう考えるか」は、万人に共通の課題と言えます。ホームSKYでは、夜間支援体制のない自立型のホームで入居者の高齢化にどう向き合っていくか、たびたび話題に上がり話し合われてきました。

SKYかわさきのグループホーム事業は27年前、1996年から始まりました。2023年現在、入居者の平均年齢は52歳です。70歳以上の方は入居して10年～20年になる方が多く、50代や60代で入居して今に至っています。長年のグループホームでの生活の中で、思いがけない事故や病気などにより身体的介護や医療的ケアを常に必要とし、自立生活を送ることが難しい状況になると、グループホームでの生活の継続が難しくなります。高齢者向け施設への移行を検討しますが、相談できる親族がいない、あるいは親族自身も高齢で援助が難しい場合もあります。厳しい話題ではありますが、入居者の方々と向かい合い、高齢となる今後の生活のご希望をもっと事前に話し合っていく必要も感じています。

長期入院からグループホームという名の枠組み一地域生活一に移行された方々が、これからも安心できる生活を続けてほしいと私たちは考えますが、障害福祉と介護保険の制度の谷間の問題など、難題もたくさんあります。一人一人に合った生活の場、高齢の入居者の安心を支えられるようなノウハウを築いてゆきたいものです。

5月中旬、ゆうえんハイツに集う数名の方々と訪れた生田緑地ばら苑の光景→
何気なく声を掛け合えるのはグループホームの良いところですね。



“だけじゃない”はっぴ クリーンスタッフ募集中！

就労継続支援B型事業所はっぴわーく ～北リハ清掃部門～

多摩区登戸2959 TEL/FAX:044-299-6367

はっぴわーくでは、清掃部門として川崎市北部リハビリテーションセンター内の日常清掃を行っています。清掃場所を各自が綺麗にするという気持ちを込めて行っています。一緒にお仕事しませんか？



令和5年度からメンバーさんの仕事の丁寧さが認められ、時給がUPしました。工賃“だけじゃない”魅力もお伝えします。

“だけじゃない”はっぴの魅力

清掃を終えたあとの達成感！
運動不足解消になる
一緒に働く仲間ができる！
お互いに尊重できる居場所ができる
「わたし」の頑張りが誰かの快適につながる

《 諸条件など 》

勤務地：北部リハビリテーションセンター（川崎市麻生区百合丘2-8-2）

勤務時間：13：15～17：00（実働：3時間15分 休憩30分あり）

時給：初年度580円（但し、実習期間は480円）

ご利用条件：・週2日働ける方・清掃員にふさわしい身なりができる方 /担当の伊藤まで連絡お待ちしております。



研修委員報告 令和4年度業務報告会を開催しました！

令和5年2月8日、コロナ禍で開催できていなかった業務報告会を3年ぶりに開催しました！！今回は、「事業や活動、支援に対するここが熱い！」をテーマに4事業所が発表を行いました。

「発表事業所&報告内容」

- ①はっぴわーく 「だけじゃないはっぴ」
- ②きたのば 「自己表現への気づき～音楽ワークショップ実践報告～」
- ③さくらスタジオ 「5年の振り返りと関わり方」
- ④紙ひこうき 「マッスル&ミュージック」



はっぴわーくの元気な掛け声で発表者の緊張感も場の雰囲気も和らいだ後、きたのばは踊り、さくらスタジオは小規模な地活運営への職員の想いを伝え、紙ひこうきは面白動画と合唱をし、各所の工夫を凝らした発表は、感動あり、爆笑あり、「はっ」と気づかされる場面ありで発表者の日頃の熱い想いはもちろん、良い発表にしようとして作り上げてきた努力が伝わってきました。また、今回は職員だけでなく多くのメンバーが発表に参加してくれたことも、とても嬉しかったです。発表者の皆様、本当にありがとうございました。

そして、今回はお忙しい中、関係機関の皆さまや様々なお立場の方にもご参加いただきました。おかげで、温かい雰囲気の中でそれぞれの事業所の様子をお伝えできた貴重な機会となりました。ご参加くださった皆様も本当にありがとうございました。

今年度も2月頃に業務報告会を実施予定です、今回発表していない4事業所（ゆりあす、ひまわり、があでん・ららら、グループホーム）の報告がありますよ♪次回はどんな発表になるのかな？ぜひ、お気軽にSKYの熱い想いを聞きにきてください！



SKYかわさき普及啓発委員会 活動報告

2023年2月26日(日)、3年ぶりとなるイベントを開催することができました。

『「居場所のちから」に触れる』と題し、川崎市高津区にある「川崎市子ども夢パーク」を舞台にした映画「ゆめパのじかん」上映会+西野理事長とのトークセッションを行いました。

孤独感や生きづらさは大人や子ども、障害の有無に関わらず、現代社会を生きる多くの人たちが抱える共通のテーマです。居場所や応援してくれる人たちがいることを伝えたい。障害者・子どもという“分野”の垣根を越えて「より生きやすい社会」について一緒に考える機会を作りたいと想い企画しました。

当日は教職員、学生、一般市民も含め、多くの方にご参加いただき、トークテーマ募集や質疑応答では、時間が足りなくなる程の反響がありました。引きこもり・不登校に対してどう接すれば良いのか心配や不安の声がアンケートに寄せられ、あらためて社会ニーズを実感しました。また、映画での子どもたちの言葉、紙ひこうき利用者さんからのリアルな体験談発表、西野理事長のお話が、心に刺さった、ハッと気付かされた、不安を包み込んでそっと背中を押してもらえたという感想もいただきました。

今回のテーマは新たな取り組みでしたが、活発な意見交換の時間となり大変嬉しかったです。利用者さんも当日スタッフ・発表者として活躍してくださり、また参加者としても出席されていました。

今後も利用者さんと一緒に普及啓発に取り組んでまいります。

記 藤井 恵美子

み・ん・な・の・広・場

～ SKY メンバーの投稿コーナー ～

SKY メンバーの日常を切り取ったホットな投稿をお送りする「みんなの広場」
それぞれの思いのこもった素敵な作品が集まりました！今回もお楽しみください☆

ケロタン♪ ケロタン♪

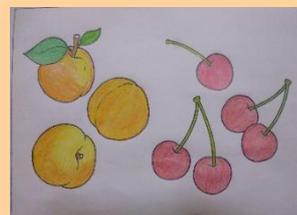


あなたが哭くと虹のお池が
雨になってしまうわ♪
あら、大変だわ♪

「よきにはからえ」
があでん・ららら ペガサス



「富士山」
正道



ホーム SKY
山崎 精一



紙ひこうき mari

Chat GPT

宮川 真頼

「ある日、自転車に乗って街を駆け抜けていると、突然前方に美しい風景が広がっていました。止まってパソコンを取り出し、その光景を写真に収めることに決めました。しかし、撮影ポイントへの道は険しく、様々な困難が待ち受けていました。スリルと興奮に満ちた冒険の中、ようやく目的地に到着。息をのむような風景を見ながら、シャッターを切る瞬間に感動が込み上げました。その一瞬の美しさを、写真を通じて多くの人々に伝えたいと心から思いました。自転車、パソコン、写真撮影—これらの趣味が織り成す冒険のストーリーは、私の人生に色とりどりの輝きを与えてくれるのです。」

この文は、今流行りの ChatGPT で書かれたものですが、僕の代わりにここまで書かれるとは思いませんでした。ところで僕は、昨夜 Youtube を見て、ミニベロで一泊旅行の計画をして実行した人の動画を見ました。僕もこの調子で行ければ良いなと思いました。

Hello ~天国から手紙をくれたあなたへ~

Hello 天国から手紙をくれたあなたへ
私やっとあなたへ手紙が書ける

Hello 翼があるってこんなコト?
ついに見つけたの ずっと探してた

気がついたら目の前に山積みだわ
急いで でも楽しんでやらなきゃね

あなたの心はいつも心の中で感じてる
あの頃より綺麗になってみるのも良いかもね!

Hello あなたはずっと見ていてくれたわ
それが分からなかった日は一度もない

Hello 新たな出逢いと道に感謝です
次の手紙はいつか分からないけど

相変わらず あらげずり 無鉄砲?
あなたなら気にするなって言うでしょ?

あとは私らしくやるだけ やってやるわ
あの頃に負けない私になってみるのが一番良いよね!

紙ひこうき 烏山焰



ミリペンで一発描きをしました。
黒の効果線がうまくいってよかったです。

「歌姫」

さくらスタジオ 渡辺 成美

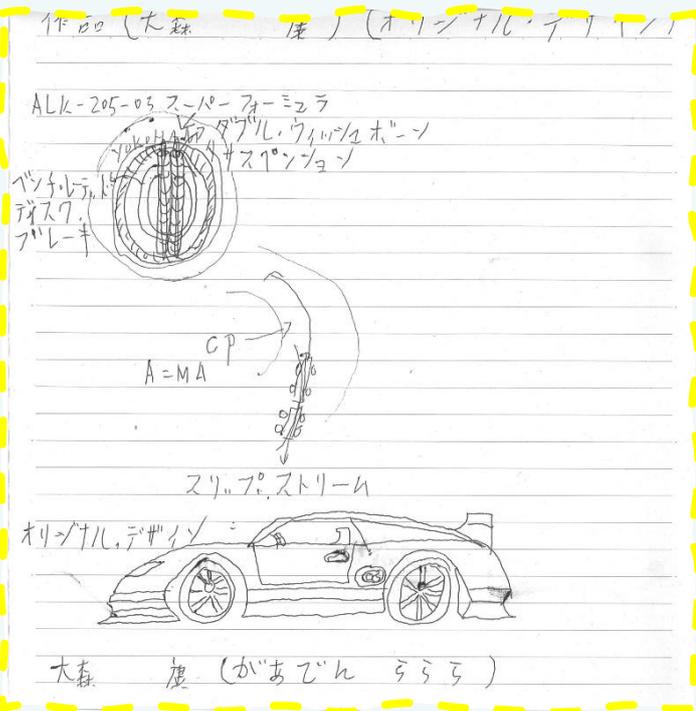


「トゲトゲっ子」

ホーム SKY 文枝



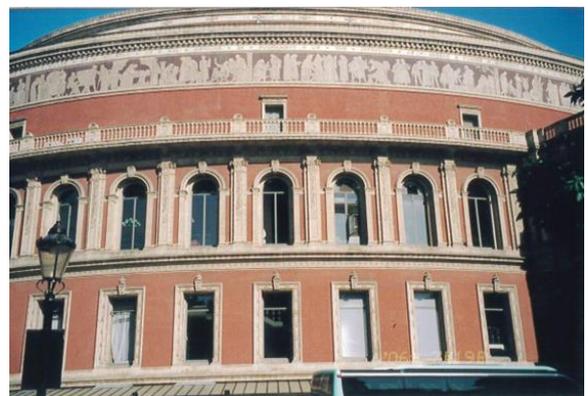
ホーム SKY 齊藤貢司



「オリジナルデザイン」 があでん・ららら 大森康

ロイヤルアルバートホール

ゆりあす 堀部 敦



イギリスの日本武道館みたいなどころ。

2006年7月19日撮影。

低料金でクラシック音楽を鑑賞しました。



記憶があるうちに… 「古き昭和の時代の我が町」

生まれも育ちも川崎市多摩区、生まれた時の記憶はないが、幼稚園の頃の記憶は少しある。

そのころは、まだ多摩区ではなく生田という地名（現在は、枳形）だった。幼稚園は丸山幼稚園、年少の時はバスだったと思うが、歩いて行った記憶が…。ほとんどビルはなく、梨畑と田んぼばかりで、あぜ道を歩いて通っていた。小学生の頃多摩区となったが、まだ五反田川と小田急線の間は、田んぼしかなく、帰り道田んぼで遊んだ記憶がある。

その頃良く遊んだのは、枳形山（生田緑地の手前の山）と専修大学のグラウンド。向ヶ丘ショッパーズプラザ（ダイエー）が出来た時は賑わっていて、たまに遊びに行った記憶がある。

平成から令和の時代となり、ほとんど田んぼも梨畑も見かけなくなってしまった。向ヶ丘遊園地（昔のうちの庭(笑)）もモノレールもダイエーもなくなり、遊園から登戸にかけてまったく昔の面影がなくなってしまった。ただ、「登戸ゴールデン街」というアーチを見た時には、こころが躍った！

ただ、飲み屋街ではなく、飲食店が入ったビルだった！！

FROM：ゆりあす 小暮さん



(2023年5月10日オープン時撮影)

次回のつぶやきは？ ホームSKY 山下さん



イカス!スカイ展 を開催します

～作品を通して市民の皆様とつながりたい！ 私たちも街で暮らしています！～

2023年 7/28(金)～8/2(水) 休館日:7/30(日)

開館時間:10:30～16:30 入場無料

多摩市民ギャラリー[多摩区役所2F]

SKY かわさきに集う仲間たちの作品展です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



☆おしらせ☆

SKY 通信 49 号より「事業所紹介」は4事業所ずつになりました。

次号は、「地域活動支援センターきたのぼ」「地域活動支援センター紙ひこうき」

「就労継続支援 B 型事業所があでん・ららら」「地域相談支援センターひまわり」の紹介になります。お楽しみに！！！！

編集後記

毎年毎年どれだけ対策をしても蚊に刺されすぎています。今年もどれだけ刺されるのか憂鬱です(お)